



やなぎ美智子からのお便り

事務所：市川市鬼高2-5-16 清央荘101号室

メールアドレス：kangoshi@hotmail.co.jp

やなぎ携帯：090-1508-7120

11月1日 東総地区クリーンセンター視察

日本共産党市川市議団の3名は、DBO方式採用を予定している市川市のクリーンセンター建て替え問題を考える参考にと、DBO方式で稼働している東総地区クリーンセンターを視察しました。銚子市・旭市・匝瑳市の東総地区広域市町村事務組合で、昨年4月に事業開始された施設は清潔感があり、ゴミ処理施設とは思えない建物でした。見学コースは様々な工夫が施され、ゴミ問題を考える学習施設にもなっています。

最終処分場がすぐ近くにあり、林や畑、風力発電機が回っている地域に立地しています。人口規模や立地条件は市川市と大きく異なりますが、ゴミ減量への努力は参考になりました。DBO方式のデメリットとして施設職員は「20年間の事業契約期間を終了した段階で、事業の継続性が見通せないことだ」と話しており、安定性と継続性が求められる大規模な公共事業に、DBO方式を採用することに私は疑問を感じました。



写真はクリーンセンター玄関前で。右から廣田市議、清水市議、やなぎ

田中市長は、クリーンセンターや斎場の建て替えに巨額のお金がかかるので、向こう3年間は新規事業凍結・全部局でマイナス5%予算編成で臨むとしています。市川のクリーンセンター建て替えに約400億円と言われています。3市合わせて人口が市川の約1/3の東総地区のクリーンセンターの契約金額は366億8000万円です。400億円で済むのでしょうか？この



-DBO方式とは-

デザイン・ビルド・オペレートの略

施設の所有・資金調達は自治体が行い、設計・建設・運営は民間事業者へ委託する公設民営の一つの方式です。

ゴミ焼却施設における過去5年間の他自治体の契約52件の調査では、DBO方式を採用する自治体が30件と多くなっています。

DBO方式は、民間事業者が資金調達をしないため、金融機関による監視がないなどの問題が指摘されています。

ような大規模な公共事業を民間にほぼ丸投げする方式を採用して良いのでしょうか？
民間の事業である以上、効率性・経済性が優先され、安全・安心が二の次になってしまいかねず、公共の関与・責任を明確にする必要があります。

市川市のクリーンセンター整備スケジュール（環境部）

- 2024年までに 運営事業者選定
- 2024年：建設工事着工
- 2030年：供用開始 現施設解体

無料法律相談

12月13日（火）

午後2時～5時

市役所第一庁舎6階共産党控室

相談を希望される方は事前予約が必要です。市役所共産党控室か、やなぎ美智子にご連絡ください。

電話：047-334-1111（内線18218）

12月議会が2日開会、19日閉会予定で開かれます

日本共産党の代表質問は金子議員が行います。やなぎの一般質問の予定4項目は○特別支援学校のスクールバスの安全対策○空き店舗○「介護予防・日常生活支援 総合事業」○ドックランについてです。



○ドックランについて
 北方地域在住の方から、「ドックランについて議会できりあげてほしい。自分はネコ派だが、犬を飼っている人は近所に沢山いる。子の神公園は中央・東・西と並んでいる。その内の一つでもドックラン公園にできないか」との要望でした。現在、市内のドックランは塩浜の1か所だけです。
 市議会で過去3回とりあげられ、市側の回答は「整備の必要性について検討する」とどまっています。
 (2008年、2015年)
 写真左は「子の神公園」



○特別支援学校のスクールバスの安全対策について
 11月10日、広島の特例支援学校のスクールバスで児童の置き去り事案がありました。
 9月5日、静岡県牧之原市の川崎幼稚園の送迎バスに3歳児が取り残されて死亡した事故後、政府は安全装置設置の義務化を認定こども園や保育所、幼稚園のバスに加え、特別支援学校の小中高生が乗る送迎バスも対象にするとしてきました。安全装置設置を早急に実施することは無論ですが、人による確認が絶対不可欠です。児童にクラクションを鳴らす訓練なども行われていますが、特別支援学校の児童への訓練は容易ではないと思います。
 9月議会での特別支援学校のスクールバスの感染対策に続いて、安全対策をとりあげます。(写真左は東京新聞記事)

広島市教育委員会は11月、市教委に上り、議会に広島特別支援学校のスクールバスについては、バスは前に児童一人約四十五分置き、分に学校に到着し、その後りとする事案があったと発表し、が教員に「いじめ」に付した。同乗して介護員が降車、員がバス会社へ問い合わせ、確認を急いでいた。バスが車庫に、前九時五十分、連絡受け戻る途中で運転手が発見し、児童、手が後部座席に座っていた。

○介護予防・日常生活支援 総合事業について
 政府は要支援に続き、要介護1・2の訪問と通所介護を保険給付から外し、市区町村の事業である総合事業に移行させようとしています。地域の多様な受け皿は進んでおらず、サービスは低下での健康悪化の恐れがあります。政府の介護費用抑制に批判が広がっています。市川市の総合事業の現状と課題についてとりあげます。

○空き店舗について
 市民から「近所のスーパーマーケットが閉店した。生鮮食品・お惣菜・野菜・果物・日用品まで何でも揃っていたお店だった。これから買い物をするのが大変な気がする」との声が寄せられました。空き家問題はこれまでも議会できりあげてきましたが、空き店舗問題も深刻です。買い物難民を生み出さない行政の支援をとりあげます。



政治・経済・国際問題など楽しく語る「あかはた新聞読者会」を開催しました

「赤旗」編集局勤務員の西森知弘さんは、スクープ連発の舞台裏、他のメディアとの決定的な違いなどを語りました。「市民運動がきちんと掲載されている」と浅野さんも太鼓判を押します。



11月10日、鬼高・鬼越地域の日本共産党後援会主催「あかはた新聞読者会」
 写真は浅野ふみ子県議予定候補（右） その左が西森知弘さん